

第4節 結核・感染症対策

1 結核予防

(1) 結核罹患状況

わが国の結核状況は、新登録患者数が年々減少しており、令和3年には初めて低まん延国の水準となった。しかし、依然としてわが国最大の感染症の一つである。

令和6年の管内の新登録患者数(表1)は19人で、昨年と同値であり、罹患率は8.7と昨年と同値であった。感染の危険性が高い喀痰塗抹陽性肺結核患者数は5人で昨年に比べ3人減少し、喀痰塗抹陽性肺結核罹患率も2.3と昨年(3.6)と比較し減少した。新登録患者に占める割合は、26.3%と昨年と比較し減少している。

令和6年12月末における管内での登録者数(表2)は39人で昨年より6人増加し、登録率は17.9で、石川県(13.5)を上回った。活動性結核患者は13人で、

有病率は6.0で昨年(7.7)と比べ減少した。

新登録患者の年齢階層別では(表3-1)では70歳以上が15人と全体の78.9%を占め、性別で見ると(表3-2)男性が6人で罹患率が5.6、女性が13人で罹患率が11.7と女性が多かった。新登録患者の発見方法別内訳(表3-3)では、医療機関受診が15人で全体の78.9%を占め、定期健康診断が2人(10.5%)であった。

潜在性結核感染症に該当する者の届出は(表3-3)12人で、昨年(6人)と比較して増加している。発見方法別で見ると、健康診断が3人となっており全体の33.3%を占めている。

表1 新登録結核患者数、罹患率の年次推移 (単位、患者数：人、罹患率：人口10万対)

		R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
南加賀管内	新登録結核患者数	19	26	19	19	19
	全結核罹患率 罹患率	8.5	11.7	8.6	8.7	8.7
	菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数	7	15	9	8	5
	喀痰塗抹陽性肺結核 罹患率	3.1	6.7	4.1	3.6	2.3
	新登録結核患者に占める割合	36.8%	57.7%	47.4%	42.1%	26.3%
石川県	新登録結核患者数	99	97	79	70	84
	全結核罹患率 罹患率	8.7	8.6	7.1	6.3	7.7
	菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数	30	39	31	23	23
	喀痰塗抹陽性肺結核 罹患率	2.6	3.5	2.8	2.1	2.1
	新登録結核患者に占める割合	30.3%	40.2%	39.2%	32.9%	27.4%
全国	新登録結核患者数	12,739	11,519	10,235	10,096	10,051
	全結核罹患率 罹患率	10.1	9.2	8.2	8.1	8.1
	菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数	4,615	4,127	3,703	3,524	3,352
	喀痰塗抹陽性肺結核 罹患率	3.7	3.3	3.0	2.8	2.7
	新登録結核患者に占める割合	36.2%	35.8%	36.2%	34.9%	33.3%

表2 結核登録者数・登録率、有病者数・有病率の年次推移 (単位：人)

		R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
南加賀管内	結核登録者数	42	39	35	33	39
	登録率(人口10万対)	18.7	17.5	15.8	15.0	17.9
	活動性結核患者数	12	13	11	17	13
	有病率(人口10万対)	5.4	5.8	5.0	7.7	6.0
石川県	結核登録者数	187	176	169	148	148
	登録率(人口10万対)	16.5	15.6	15.1	13.3	13.5
	活動性結核患者数	61	61	45	49	57
	有病率(人口10万対)	5.4	5.4	4.0	4.4	5.2
全国	結核登録者数	31,551	27,754	24,555	22,426	21,621
	登録率(人口10万対)	25.0	22.1	19.7	18.0	17.5
	活動性結核患者数	8,640	7,744	6,782	6,794	6,712
	有病率(人口10万対)	6.8	6.2	5.4	5.5	5.4

表 3-1 新登録患者数（活動性分類・年齢階級別）（単位：人）

令和6年1月1日～令和6年12月31日

	新登録患者数	活動性結核							罹患率 (人口10万対)	(別掲) 潜在性結核感染症
		総数	肺結核活動性			その他の結核菌陽性	菌陰性その他	肺外結核活動性		
			総数	初回治療	再治療					
総数	19	15	5	4	1	9	1	4	8.7	12
年齢階級別	0～4	-	-	-	-	-	-	-	0.0	-
	5～9	-	-	-	-	-	-	-	0.0	-
	10～14	-	-	-	-	-	-	-	0.0	-
	15～19	1	1	1	-	1	-	-	9.4	-
	20～29	1	1	-	-	-	1	-	5.1	1
	30～39	2	2	-	-	-	2	-	9.6	-
	40～49	-	-	-	-	-	-	-	0.0	-
	50～59	1	-	-	-	-	-	-	3.1	-
	60～69	-	-	-	-	-	-	-	0.0	-
	70～79	4	2	1	1	-	1	-	13.3	6
80～89	7	6	2	2	-	3	1	37.8	5	
90以上	3	3	1	1	-	2	-	54.3	-	
40歳以上の比率	78.9%	73.3%	80.0%	100.0%	0.0%	66.7%	100.0%	100.0%		91.7%
70歳以上の比率	73.7%	73.3%	80.0%	100.0%	0.0%	66.7%	100.0%	75.0%		91.7%

表 3-2 新登録患者数（活動性分類・性別・市町別）（単位：人）

令和6年1月1日～令和6年12月31日

	新登録患者数	活動性結核							罹患率 (人口10万対)	(別掲) 潜在性結核感染症	
		総数	肺結核活動性			その他の結核菌陽性	菌陰性その他	肺外結核活動性			
			総数	初回治療	再治療						
総数	19	15	5	4	1	9	1	4	8.7	12	
性別	男	6	5	1	1	-	4	-	1	5.6	8
	女	13	10	4	3	1	5	1	3	11.7	4
市町別	小松市	7	6	3	3	-	2	1	1	8.7	6
	加賀市	6	4	2	1	1	2	-	2	6.7	3
	能美市	6	5	-	-	-	5	-	1	10.1	3
	川北町	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	-

表 3-3 新登録患者数（発見方法別）（単位：人）

令和6年1月1日～令和6年12月31日

	新登録患者数	活動性結核							構成比 (%)	(別掲) 潜在性結核感染症
		総数	肺結核活動性			その他の結核菌陽性	菌陰性その他	肺外結核活動性		
			総数	初回治療	再治療					
総数	19	15	5	4	1	9	1	4	100.0%	12
健康診断	3	2	-	-	-	2	-	1	15.8%	3
個別健康診断	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%	-
定期健康診断	2	1	-	-	-	1	-	1	10.5%	-
学校健診	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%	-
住民健診	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%	-
職場健診	2	1	-	-	-	1	-	1	10.5%	-
施設健診	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%	-
接触者健康診断	1	1	-	-	-	1	-	-	5.3%	3
家族健診	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%	2
その他	1	1	-	-	-	1	-	-	5.3%	1
医療機関受診	15	12	5	4	1	6	1	3	78.9%	9
受診	8	5	2	2	-	2	1	3	42.1%	-
他疾患入院中	6	6	3	2	1	3	-	-	31.6%	3
他疾患通院中	1	1	-	-	-	1	-	-	5.3%	6
その他	1	1	-	-	-	1	-	-	5.3%	-

表 4-1 結核登録者数（活動性分類・年齢階級別）（単位：人）

令和 6 年 12 月 31 日現在

	登録者 総数	活動性結核								不活動性 結核	活動性 不明	(別掲) 潜在性 結核 感染症		
		総数	肺結核活動性						肺外 結核 活動性			治療中	観察中	
			総数	登録時喀痰塗抹陽性			登録時 その他 の結核 菌陽性	登録時 菌陰性 その他						
				総数	初回 治療	再治療								
総数	39	13	11	4	3	1	7	-	2	26	-	9	8	
年齢階級別	0～4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5～9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10～14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	15～19	1	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
	20～29	4	1	1	-	-	-	1	-	-	3	-	1	
	30～39	3	1	1	-	-	-	1	-	-	2	-	-	
	40～49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	50～59	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1
	60～69	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	70～79	8	3	2	1	1	-	1	-	1	5	-	4	3
	80～89	14	5	4	1	1	-	3	-	1	9	-	4	1
90以上	7	2	2	1	1	-	1	-	-	5	-	-	1	
40歳以上の比率	79.5%	76.9%	72.7%	75.0%	100.0%	0.0%	71.4%	0.0%	100.0%	80.8%	0.0%	88.9%	100.0%	
70歳以上の比率	74.4%	76.9%	72.7%	75.0%	100.0%	0.0%	71.4%	0.0%	100.0%	73.1%	0.0%	88.9%	62.5%	

表 4-2 結核登録者数（活動性分類・性別・市町別）（単位：人）

令和 6 年 12 月 31 日現在

	登録者 総数	活動性結核								不活動性 結核	活動性 不明	(別掲) 潜在性 結核 感染症		
		総数	肺結核活動性						肺外 結核 活動性			治療中	観察中	
			総数	登録時喀痰塗抹陽性			登録時 その他 の結核 菌陽性	登録時 菌陰性 その他						
				総数	初回 治療	再治療								
総数	39	13	11	4	3	1	7	-	2	26	-	9	8	
性別	男	17	2	1	-	-	-	1	-	1	15	-	7	4
	女	22	11	10	4	3	1	6	-	1	11	-	2	4
市町別	小松市	15	4	4	2	2	-	2	-	-	11	-	5	4
	加賀市	14	5	4	2	1	1	2	-	1	9	-	2	1
	能美市	10	4	3	-	-	-	3	-	1	6	-	2	3
	川北町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表 5 結核死亡数及び死亡率の年次推移

(単位、死亡数：人、死亡率：人口 10 万対)

		R2 年	R3 年	R4 年	R5 年	R6 年
南加賀管内	死亡数	1	4	1	1	0
	死亡率	0.4	1.8	0.5	0.5	0.0
石川県	死亡数	15	16	18	10	7
	死亡率	1.3	1.4	1.6	0.9	0.6
全 国	死亡数	1,909	1,845	1,664	1,587	1,462
	死亡率	1.5	1.5	1.4	1.3	1.2

(2) 結核患者管理状況

保健所では感染症法に基づき結核患者及び結核回復者について登録管理をしている（表6）。

登録中の患者に対しては、保健師等の家庭訪問により患者の治療支援や相談、積極的疫学調査や接触者健康診断の連絡調整などで面接や相談を実施している（表7）。治療終了者や治療中断者に対して、再

発の有無の検査として精密検査（管理検診）を実施している（表8）。

さらに、市町や学校長、施設長や事業者等に対する結核定期健康診断の把握（表9）を通して、実施徹底にかかる指導を行い、結核患者の家族及び接触者に対しては接触者健康診断を実施している（表10）。

表6 結核登録状況（単位：人）

令和6年1月1日～令和6年12月31日

	前年末 総数 (A)	本年中登録			本年中抹消					本年末 総数 (A+B-C)
		新規	転入	計 (B)	治癒 観察不要	死亡	転出	その他	計 (C)	
合計	52	31	1	32	20	6	1	1	28	56
結核患者	33	19	1	20	9	5	-	-	14	39
潜在性結核感染症	19	12	-	12	11	1	1	1	14	17

表7 保健指導実施状況（単位：件数）

令和6年度

訪問		来所相談		電話相談	
実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
27	92	16	32		1,409

表8 管理検診実施状況（単位：人）

令和6年度

対象者 (A)	保健所	受診者数						検診結果			
		委託医療機関		定期 病状 報告	他の医 療機 関 等	計 (B)	受診率 (B/A)%	要医療	要観察	観 察 不 要	
		内 訳	内 訳								
63	-	51	直接 撮影	15	12	-	63	100%	-	34	29

表9 結核定期健康診断の状況

令和6年度

	対象者数	受診者数				検診結果	
		受診者数	受診率%	検査内容		患者発見数	発病の恐れのある者
				間接撮影	直接撮影		
合計	83,371	25,525	31.9%	-	25,525	-	-
事業主	11,470	10,576	92.2%	-	10,576	-	-
学校長	2,613	2,598	99.4%	-	2,598	-	-
施設長	1,860	1,798	96.7%	-	1,798	-	-
市町長	67,454	10,553	15.6%	-	10,553	-	-

※結核健康診断報告書が予防接種法施行規則の一部改正（平成25年4月1日施行）により、「結核に係る予防接種を受けた者の数に関する1月ごとの市町村長の報告」が廃止されたことに伴い、予防接種の報告欄が削除された。

表10 接触者健康診断実施状況（単位：人）

令和6年度

	対象者 (A)	受診者数										検診結果			
		保健所実施		委託医療機関実施分						集団健診分		計 (B)	受診率 (B/A) %	発見 患者 数	発病 の恐 れ の あ る 者
		内訳	IGRA	内訳				内訳	直接 撮影						
				ツ反	直接 撮影	喀痰	IGRA								
合計	176	127	127	21	-	16	1	5	28	28	176	100.0%	-	2	
患者家族	28	14	14	14	-	9	1	4	-	-	28	100.0%	-	1	
その他	149	113	113	8	-	7	-	1	28	28	149	100.0%	-	1	

結核対策研修会	<p>対 象：医療機関等における医師及び医療関係者 実施日：令和6年8月9日（金） 19：00～21：00 内 容： 1) 講話：「南加賀保健所管内の結核患者の現状」 担当：南加賀保健所職員 2) 講演：「日常診療における、結核と非結核性抗酸菌症の治療のトピックス」 講師：国立病院機構近畿中央呼吸器センター 臨床研究センター 感染症研究部長 露口 一成 先生</p>
治療成功のための支援事業	<p>コホート検討会（年2回）：診査会終了後に開催 実施日：令和6年6月26日（水）、令和7年2月12日（水） 内 容：活動性結核患者の治療成績の判定および評価 検討対象：新登録の活動性結核患者の内、治療終了者22名 参加者：感染症診査協議会委員、保健所長、保健所担当者</p>
	<p>DOTSカンファレンス（6件開催） 実施日：4/8、4/10、7/4、7/23、10/18、12/3 会 場：県内医療機関 対 象：塗抹陽性肺結核患者及び主治医が服薬支援を必要と認めた患者 （退院時に病棟から連絡） 参加者：本人、家族、病院主治医、担当看護師、薬剤師、地域医療連携室等 保健所保健師、服薬支援者（ケアマネージャー等）</p>

2 感染症予防

(1) 感染症発生状況

感染症発生動向調査

感染症の蔓延を防止するため、医療機関の協力のもと、患者の発生状況や病原体検出結果等の流行実態を早期かつ的確に把握し、情報を速やかに地域に還元することにより、有効かつ適切な予防対策の確立に資することを目的として、通年実施している。感染症予防相談状況では、延べ 3,003 件の相談に対応しており、相談内容としては、結

核・腸管出血性大腸菌が多くを占めている状況であった。

新型コロナウイルス感染症については、令和 5 年 5 月 8 日に、5 類感染症に位置づけられ、全数把握から定点把握となった。そこから相談件数も減少傾向にある。全数把握感染症については、令和 6 年は百日咳の届け出が増加している。

表 11-1 感染症発生状況（全数把握）

（単位：人）

		R 2 年	R 3 年	R 4 年	R 5 年	R 6 年
一類（全 7 疾患）		0	0	0	0	0
二類（全 7 疾患）	結核（潜在性結核感染症含む）	27	37	22	25	28
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0
三類（全 5 疾患）	コレラ	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	4	10	9	9	16
四類（全 44 疾患）	E 型肝炎	0	0	0	0	2
	A 型肝炎	0	1	1	1	0
	重症熱血小板減少性症候群（SFTS）	0	0	0	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0	0
	デング熱	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0
	マラリア	0	0	0	0	1
	レジオネラ症	4	6	12	12	8
五類（全 24 疾患）	アメーバ赤痢	3	0	0	0	3
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0
	カルバペム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	3	5	4	1
	急性弛緩性麻痺	1	0	2	0	0
	急性脳炎	0	0	0	1	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	3	1	0	1
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	1	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	6	0	4	8
	水痘（入院例）	1	0	1	4	1
	梅毒	3	4	5	9	9
	播種性クリプトコックス症	1	0	1	0	1
	百日咳	10	7	4	3	11
	風しん	0	0	0	0	0
麻疹	0	0	0	0	0	

表 11-2 感染症予防相談状況 (延件数)

令和6年度

		訪問相談		来所相談		電話相談			
		実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数		
感染症総数		60	141	213	232	329	3,003		
(内訳)	一類感染症	0	—	0	—	0	—		
	二類感染症 (結核)	27	92	16	32	86	1,409		
	三類感染症	9	20	9	12	15	344		
	(内訳)	腸管出血性大腸菌感染症	9	20	9	12	15	344	
	四類感染症	9	12	1	1	12	104		
	五類感染症 (全数報告対象の感染症のみ) ※HIV 除く	1	1	95	95	16	16		
	その他 (集団発生、一般相談)	14	16	92	92	200	1,130		
	(内訳)	集団発生	感染性胃腸炎 (ノロウイルス含む)	6	7	1	1	22	106
			インフルエンザ	0	0	0	0	22	60
			新型コロナウイルス感染症	7	8	0	0	50	218
上記以外の集団発生			1	1	0	0	9	27	
その他一般相談	0	0	91	91	97	200			

表12 感染症発生動向調査月別患者報告数

令和6年 (単位:人)

定点	疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
	COVID-19	管内	399	373	262	399	83	85	280	389	192	67	42	93	2,664
		県内	2,673	3,411	1,520	597	506	634	2,109	2,522	1,372	505	319	872	17,040
	インフルエンザ	管内	675	893	754	279	2	0	1	2	2	13	30	383	3,034
		県内	3,127	4,077	5,797	1,209	26	4	15	10	24	65	220	3,652	18,226
小児科	RSウイルス感染症	管内	0	4	14	132	35	26	27	25	7	4	9	11	294
		県内	5	6	30	87	152	119	132	74	68	36	21	33	763
	咽頭結膜熱	管内	101	35	29	52	2	1	6	2	4	1	7	15	255
		県内	374	188	117	53	80	62	37	15	9	10	23	61	1,029
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	管内	125	110	66	182	22	32	37	5	11	23	20	30	663
		県内	406	421	329	220	317	294	204	114	108	200	166	321	3,100
	感染性胃腸炎	管内	331	283	221	633	136	110	108	84	92	114	66	151	2,329
		県内	1,214	1,359	1,037	570	784	682	575	405	552	634	511	1262	9,585
	水痘	管内	17	13	3	21	1	4	5	2	2	2	1	13	84
		県内	46	45	30	10	23	31	17	20	12	16	38	107	395
	手足口病	管内	3	11	10	50	83	70	102	91	150	175	44	25	814
		県内	24	24	13	31	310	936	1,380	680	1,266	1,563	548	121	6,896
	伝染性紅斑	管内	0	0	0	1	3	0	0	0	0	1	0	2	7
		県内	1	1	1	0	5	1	2	0	1	5	6	27	50
	突発性発疹	管内	2	1	5	17	2	6	4	4	4	2	3	1	51
		県内	23	14	25	17	13	35	35	27	34	24	25	28	300
ヘルパンギーナ	管内	1	1	1	4	0	13	142	61	56	24	17	8	327	
	県内	2	1	3	0	15	51	287	151	105	37	20	9	681	
流行性耳下腺炎	管内	0	0	1	1	0	1	0	0	2	0	0	0	5	
	県内	0	0	4	1	0	5	3	1	6	0	1	0	21	
眼科	急性出血性結膜炎	管内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
	流行性角結膜炎	管内	11	7	5	15	2	0	2	0	1	0	0	2	45
		県内	107	68	33	26	34	90	38	16	11	16	13	88	540
基幹	細菌性髄膜炎 (真菌性を含む)	管内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	管内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		県内	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
	マイコプラズマ肺炎	管内	0	0	0	0	1	1	8	6	8	12	16	15	67
		県内	0	0	2	0	2	1	11	12	19	40	45	39	171
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	管内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	管内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

感染症発生動向調査月別患者報告数

令和6年 (単位:人)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
性器クラミジア感染症	管内	1	2	2	1	3	0	1	1	3	1	1	2	18
	県内	33	50	39	37	40	43	47	45	40	44	41	45	504
性器ヘルペスウイルス感染症	管内	6	5	5	5	4	4	4	4	7	5	5	6	60
	県内	8	11	13	14	10	10	16	9	13	17	11	14	146
尖形コンジローム	管内	4	3	1	2	1	3	3	2	2	2	3	5	31
	県内	6	5	4	8	7	10	9	8	8	8	8	9	90
淋菌感染症	管内	0	3	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	9
	県内	12	18	16	13	9	7	20	15	4	12	7	9	142
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	管内	6	6	6	10	7	13	9	8	8	12	8	7	100
	県内	13	11	16	17	14	19	16	16	17	28	21	10	198
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	管内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	管内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) インフルエンザ様集団かぜ発生状況

(表 14-1、14-2)

令和6年度冬季の発生状況として、県内初発が10月29日報告の小松市立荒屋小学校であり、終息は2月18日報告の能美市立福岡小学校であった。

県内・管内共に例年より早期に患者発生を認めた。感染症発生動向調査における警報及び注意報の発令等については、令和6年 第36週(9/2~9/8)に流行入り。令和6年 第51週

(12/16~12/22)には報告数が20.67人となり、インフルエンザ注意報発令。第52週(12/23~12/29)には報告数が43.58人となり、インフルエンザ警報発令。第52週(12/30~1/5)をピークに、その後、増減を繰り返し、令和6年5月11日をもって非流行期となった。

ウイルス分離・検出状況では、A香港型とAH1pdm09、B型が混在している状況であった。

表14-1 市町別インフルエンザ様集団かぜ 初発発生状況(令和6年度)

区 分	石川県	管内計	小松市	加賀市	能美市	川北町
施設数		95	49	30	12	4
発生施設数	84	56	30	4	10	12
在籍数(人)	12,219	868	517	85	143	123
患者数(人)	4,429	254	100	41	63	50
措置状況	休校	10	0	0	0	0
	学年閉鎖	106	14	9	0	2
	学級閉鎖	105	32	21	4	7

注：在籍者及び患者数は、措置を取ったクラス等の初発報告の累計
注：同一施設で措置が変更した場合は、休校・学年閉鎖・学級閉鎖・授業打ち切りの措置規模の大きい方をカウントしてある。

表14-2 感染症発生動向調査月別患者報告数 令和6年度(単位:人)

定点	疾患名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
インフルエンザ		管内	279	2	0	1	2	2	13	30	383	927	108	35	1,782
		県内	1,209	26	4	15	10	24	65	220	3,652	8,010	1,030	435	14,700

(3) エイズ相談状況 (表 15-1、表 15-2)

エイズに対する正しい知識の普及及び感染者の早期発見・早期治療を目的に、エイズ相談窓口を設け、検査を希望する場合はHIV抗体検査を実施している。平成17年12月からエイズ予防対策をより一層推進するため、HIV迅速検査免疫クロマト法を導入した。平成22年3月から、午前中のみ

迅速検査を実施している。

HIV検査普及週間及び世界エイズデーでは、受検者の増加や正しい理解の促進を図るため、各市町の広報や当所のホームページに検査案内を掲載、チラシ入りポケットティッシュを配布し、普及啓発を行った。

表 15-1 エイズ相談状況

令和6年度 (単位: 件)

	相談件数			相談内容				相談方法		
	男	女	計	相談のみ	病院紹介	検査依頼	計	来所	電話	計
昼間	43	13	56	2	0	54	56	54	2	56
夜間	32	9	41	0	0	41	41	41	0	41
合計	75	22	97	2	0	95	97	95	2	97

表 15-2 HIV抗体検査状況

令和6年度 (単位: 件)

	受検者数			陽性者数			(再掲)迅速法による検査		
	男	女	計	男	女	計	受検者	要追加検査数	陽性者数
10歳代	0	1	1	0	0	0	0	0	0
20歳代	25	13	38	0	0	0	9	0	0
30歳代	27	3	30	0	0	0	3	0	0
40歳代	12	1	13	0	0	0	3	0	0
50歳以上	9	4	13	0	0	0	2	0	0
合計	73	22	95	0	0	0	17	0	0
(再掲)夜間			41			0			0

(4) 性感染症相談状況 (表 16-1、表 16-2、表 16-3)

性感染症に対する正しい知識の普及及び感染者の早期発見・早期治療を目的に、性感染症相談窓口を設け、検査を希望する場合は、クラミジア及び梅毒検査を実施している。平成26年4月から、クラミジア検査が血液検査から抗原検査である尿

検査に変更され、陽性者に対しては紹介状を発行し、医療機関への受診を促す。また同時に医療機関への依頼書を渡す。医療機関からは結果書が返送される。判定不能者には再検査を実施した。

表 16-1 性感染症相談検査実施状況

令和6年度 (単位: 件)

	相談件数	梅毒血液検査				性器クラミジア感染症尿検査			
		計	陽性	陰性	判定不能	計	陽性	陰性	判定不能
男	75	69	2	67	0	65	3	62	0
女	31	21	0	21	0	22	5	17	0
計	106	90	2	88	0	87	8	79	0

表 16-2 クラミジア検査件数（性別・年齢別）

令和 6 年度（単位：件）

	計	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
男	65	-	22	26	13	3	1
女	22	1	13	4	1	3	-
計	87	1	35	30	14	6	1

表 16-3 梅毒検査件数（性別・年齢別）

令和 6 年度（単位：件）

	計	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
男	69	-	22	27	11	6	3
女	21	1	12	3	1	4	-
計	90	1	34	30	12	10	3

(5) 肝炎ウイルス相談状況（表 17）

肝炎ウイルスに対する正しい知識の普及及び感染者の早期発見・早期治療を目的に、肝炎ウイルス

相談窓口を設け、検査を希望する場合は肝炎ウイルス検査を実施している。

表 17 肝炎ウイルス相談検査状況

令和 6 年度（単位：件）

	計	HCV 抗体の検出	H C V 抗体検査					HBs 抗原検査			相談件数
		陰性	陰性	中力価及び低力価			高力価	計	陰性	陽性	
				HCV 抗原検査							
				陰性		陽性					
HCV-RNA 陰性	HCV-RNA 陽性										
男	46	-	46	-	-	-	-	46	46	-	71
女	15	-	15	-	-	-	-	15	15	-	
計	61	-	61	-	-	-	-	61	61	-	

(6) 肝炎ウイルス検査状況（表 18）

県民の肝炎ウイルス検査の受検機会を拡大し、肝炎の早期発見、治療の推進を図ることを目的と

し、肝炎ウイルス検査を医療機関においても実施している。

表 18 肝炎ウイルス検査状況

令和 6 年度（単位：件）

計	HCV 抗体の検出 または HCV 抗体検査	H C V 抗体検査				HBs 抗原検査		
	陰性	中力価及び低力価			高力価	計	陰性	陽性
		HCV 核酸増幅検査						
		陰性		陽性				
陰性	陽性							
365	301	61	-	1	365	364	1	

(7) 肝炎対策推進事業

肝炎ウイルス感染者フォローアップ事業

(ア) 目的

肝炎は、国内最大級の感染症であり、感染を放置すると肝硬変や肝がんといった重篤な病態に進行するとともに、ウイルスを通じた感染リスクがある。そのため、診断後間もない肝炎ウイルス感染者や治療中の方及び家族等に対して、肝炎についての正しい知識や治療方法に関する最新知見を学ぶための講演会・相談会を開催することにより、患者等が自分の病態を正しく認識し、長期間にわたる経過観察や治療を継続して行えるよう支援する。

(イ) 開催日・会場

令和6年10月4日(金) 14:30～16:30
石川県南加賀保健福祉センターおよび
オンライン(ハイブリッド開催)

(ウ) 対象者

管内市町の肝炎ウイルス検査、医療機関
および当センターが実施した検査で陽
性となった方及びその家族等
講演会 10名、個別相談 1名

(エ) 内容

【講演会】

「B型肝炎・C型肝炎の最新の治療」
講師：金沢大学医薬保健研究域医学系
消化器内科学
准教授 島上 哲朗 氏

【個別相談】

助言者：金沢大学医薬保健研究域医学系
消化器内科学
准教授 島上 哲朗 氏

(根拠法令：肝炎対策基本法 第17条)

(8) 「世界エイズデー」に係る普及啓発事業

(ア) 目的

性に関する意思決定や行動選択に係る能力の形成過程にある青少年の性に関する正しい知識を普及するとともに、青少年の性行動の背景にある心の問題(寂しさや自己肯定感の低さ等)に、青少年に関わる関係者が適切に対処できるよう研修することにより、青少年の生きる力を育成することに寄与する。

(イ) 開催日・会場

令和7年3月18日(火)14:00～16:00
石川県南加賀保健福祉センター
(オンライン開催)

(ウ) 参加者

管内の小・高校・特別支援等の養護教諭
助産師、市町職員、保健所職員 43名

(エ) 内容

【報告】

「石川県における性に関する取り組み」
報告：南加賀保健福祉センター
健康推進課 仁野 生吹 技師

【講話】

「知的障害や発達障害のある子への包括的性教育」
講師：国立学校法人京都教育大学
教育創生リージョナルセンター機構
総合教育臨床センター講師
門下 祐子 氏